

高齢者施設の訪問、他団体との連携。 地域交流を明るく楽しく実践。

らくゆう 楽遊クラブ ぎんが 銀雅 神戸市

「再び学んで他のために」
が、創部のきっかけ。

銭太鼓を披露するだけでなく、見ている高齢者の方々も巻き込んで銭太鼓を楽しむ。そんな活動をしているグループがあります。

神戸市の高齢者大学であるシルバーカレッジの卒業生有志で構成されるボランティア団体「グループわ」に所属し、銭太鼓の啓蒙普及に貢献している「楽遊クラブ銀雅」です。シルバーカレッジで日本民俗芸能である銭太鼓と出会い、卒業後も建学の精神である「再び学んで他のために」を実践するために、平成12年に設立されました。

当初は、高齢者福祉施設への訪問が中心でしたが、児童への伝承活動として、平成13年



から六甲道児童館、平成16年から神戸市雲雀ヶ丘小学校校区の児童、平成21年から井吹台児童館で指導しています。

平成21年からは知的障害者施設である「神戸育成会ワーカー」での指導も始め、障害者教育にも取り組んでいます。

また、神戸まつりなどのイベントに出演するほか、他地域との交流も盛んです。平成16年から島根県隠岐の島町、平成20年から岡山県真庭市、島根県安来市、平成24年から兵庫県加古川市、京都府亀岡市の銭太鼓クラブとの交流を推進。さらに仲間との交流や研鑽を目指し、平成18年から毎年「百人打ち」を開催して銭太鼓の啓蒙普及に貢献しています。

様々な工夫を凝らし、
多くの方に楽しさを。

「楽遊クラブ銀雅」は、常にどんな人に披露するのかを意識して演目の選定や振り付け

の創作を行っています。

「演技の曲は、民謡から演歌・懐メロ・童謡・アニメソングなど幅広いレパートリーにして、世代に関わらず喜んでいただけるようにしています。例えば高齢者施設を訪問する際には、ソーラン節や炭鉱節など馴染みのある曲を入れる、という具合ですね。そして、見ていただくだけでなく、体験していただくようにしています」と、代表の重松さん。

見る人を楽しませる工夫は、このほかにも。季節に応じた演出や体験コーナーを設けて参加型の構成にすることも、その二つです。また、銭太鼓だけでなく「南京玉すだれ」やコミカルな動きの「鍋蓋踊り」、「オカリナ」なども演目に取り入れ、楽しさの幅を広げています。

高齢者を笑顔にしながら
銭太鼓の楽しさを広く。

今後の取組として、重松さんは次のように話しています。「福祉施設だけでなく、老人会や自治会の集まり、給食会などでも披露して、高齢者の方々に笑顔にしていきたいですね。そして、より多くの方との交流を目指し、海外との交流にも積極的に目を向けていきたいと考えています」。

歴史の古い銭太鼓ですが、まだまだマイナーな存在です。「楽遊クラブ銀雅」は、あらゆる機会を通じて銭太鼓を広く知らせるとともに、楽しさを伝えていこうとしています。

